# 安全で豊かな地域づくりへの貢献

〜徳島森林管理署の民国連携の取組〜

四国森林管理局 徳島森林管理署

# はじめに

再生に向けた課題把握と解決に取り組 徳島森林管理署から構成される「ケー 平成28年度に徳島県、三好市、 等の一体的な取組の実現を目的として する民有林との協調施業、 んでいます(写真1)。 国有林が連携して地域の森林・林業の ススタディ会議」を設置し、 徳島森林管理署では、 国有林に隣接 協調販売 民有林· 事業体、

ついて、 てきた民国連携の様々な活動や取組に スタディ会議」を通じてこれまで行っ 徳島森林管理署において、「ケース 紹介していきます。

# 災害対策活動への支援 ドローンを活用した

に走るなど脆弱な地域でもあり、 央構造線(\*\*)の一つの三波川帯が東西好市は90%が森林で覆われ、加えて中 徳島森林管理署の管轄区域にある三 広大



それらをもとに被災範囲、 飛行させ、 発生した場合を想定し、 を受けて徳島森林管理署がドローンを 雨等の災害発生後、三好市からの要請 全国で初めて三好市との間で締結しま 動を支援する協定を、 署が所有するドローンを活用して三好 三好市の民有林において甚大な被害が な地すべり地を抱えています。 市が徳島県と連携して行う災害復旧活 した(写真2)。この協定に基づき、 民有林の被災状況を確認し、 平成29年3月に 徳島森林管理 原因 そこで

### 管内概要

徳島森林管理署は、四国の屋根と呼ばれる剣山系 主峰の剣山(1,955m)や三嶺を含み、16,282ha の国有林と 2,107ha の官行造林を管理経営してい ます。管内は、温暖で降水量も多いことから、 の生育環境に恵まれています。

徳島県では平成36年度素材生産量600千 m、新規就労者数 546 人の達成に向けた「新次元 林業プロジェクト」が進められているほか、「徳島 すぎ」の情報発信など、管内では特色ある活動が展 開されています。



# (※)中央構造線:西南日本を内帯(日本海側 と外帯(太平洋側)とに分ける大断層。

# おける民有林支援 平成30年7月豪雨災害に

根津木地区、つるぎ町桑 平 地区、上勝町根津木地区、つるぎ町桑 平 地区、上勝町はす きない こ好市山 城町白川地区・林管理署では、三好市山城町白川地区・林島県などからの要請を受け、徳島森部は、

陰行地区の4箇所で発生した民有林被

7号が西日本・四国を直撃し、 平成30年6月末から7月にかけ台風 徳島県

害地調査を行いました。空撮データは 災地において、ドローンの空撮による被

災害

ることとしています。 Ų 森林管理署が保有する衛星電話を活用 り孤立した集落等があった場合、 対策案などを提案するほか、 孤立集落の状況等も併せて提供す 被災によ 徳島

握するとともに、徳島県や関係市町村が

して民有林における被害状況を確認・把 徳島森林管理署では、ドローンも活用

行う災害調査活動に徳島森林管理署が

支援していく態勢を整えました。

内に大きな被害の爪痕を残しました。

### 署の基礎データ

所 在 地	徳島県徳島市川内町鶴島 239 - 1
区域面積	414,700ha
う 森 林 面 積	314,857ha(森林率 76%)
国 有 林	18,389ha(国有林率 5.9%)
管轄区の 関係市町村	1

注:区域面積、うち森林面積は、「徳島県の経済と産業」 2018年版(公益財団法人 徳島経済研究所)による

持つ技術やノウハウを提供していくこ 活用できることから、徳島森林管理署が 業体職員などを対象とした「ドローン操 成30年9月、 な民有林支援を発展させていくため、平 支援へと繋がりました。また、このよう 業の申請に有効活用され 縦講習会」を開催しました。ドローンは 、早期の被災状況の把握と災害復旧事 、森林調査等など様々な場面で 市町村林務担当者、林業事 新たな民有林 スタディ会議の様子



三好市と徳島森林管理署 のドローン活用災害活動 支援協定(H29.3.23)

民有林被災地におけるド ローンを活用した被害調

市町村林務担当者を対象 にしたドローン操縦講習会の様子

査の様子

**2** 

写真:3

**1** 

## 地域の林業を担う **八材育成支援**

の種類、 象に卒業までの3年間に渡って、 います 林クリエイト科」 に徳島県立那賀高校に設置された「森 徳島森林管理署では、 (写真5) 収穫等の講義を行って 図 1 。 の生徒 平成28年4月 (26 名) を 対

管理局長との間で締結された人材育成 開講しました。平成30年3月、徳島県知事 就業希望者が実践的な林業技術を習得 量など現地実習、講師の派遣、現地見学会 森林管理署が主体となってコンパス測 連携協定に基づき、平成30年度から、徳島 徳島県森林づくり推進機構と四国森林 するための「とくしま林業アカデミー」が また、徳島県では、平成28年4月に林業

ることを期待しています とで、地元の森林・林業の振興につなが (写真3)(写 等に積極的に取り組んでいます。

当日に行われた災害対策会議で活用さ その場で徳島県の担当者に提供し、空撮

真4)。

(※) オルソ画像:空中写真の位置ズレをな に画像変換したもの。 くし、真上から見たような傾きのない、 しい大きさと位置に表示されるよう

入力した成果品も提供したことによっ オルソ画像㈜を作成し、標高データを れました。さらに、空撮データをもとに

# シラクチカズラの資源確保 祖谷のかずら橋の

用を通じた地域振興に資することを目 では三好市、香川大農学部と連携し、国 これらの協定に基づき、徳島森林管理署 連携協力に関する協定を締結しました。 大学農学部と徳島森林管理署との間で 的として、平成30年2月に、三好市、香川 に向けた技術的支援やシラクチカズラ 定」を締結するとともに、更に資源確保 年3月、架け替え資材確保実行委員会と す。このため徳島森林管理署は、平成24 カズラの資源確保が課題になっていま は、3年毎に架け替えが行われ、 る重要な観光資源です(写真6)。この橋 財で、年間30万人を超える観光客が訪れ に自生する架け替え用資材のシラクチ かずら橋」は、国指定重要有形民俗文化 、猿梨、学名:Actinidia arguta)の実の活 間で「木の文化を支える森づくり協 徳島県三好市西祖谷山村の 「祖谷の 、山間部

とどまらず、

した。

の

有林を活用した、シラクチカズラの優良

の検討等に取り組んでいます。 民国連携の

母樹の確保と苗木の育成、実の活用方法

# 更なる発展に向けて

取組は、 の架け替え資材の確保と進化してきま 化」の象徴である「祖谷のかずら橋 まった徳島森林管理署の民国連携への 支援へと拡がり、 ーススタディ会議の設置により 災害対策活動支援、 更に地域の 人材育成 「木の文

極的に貢献していきた 地域全体の活性化に積 の森林・林業の振興と らの取組を通じて地域 いと考えています。 するまでに拡大してき これまでの林業分野 観光分野まで関係 これらの活動 今後も、 徳島森林管理 大学や農 これ 那賀高校森林クリエイト科の教育支援プログラム 森林のもつ多面 森林の種類 森林施業 森林・林業・木 新たな木材利用、 木材市場、 木材 材産業の現状 加工施設見学



祖谷のかずら橋 **1**16

X

署では、

ました。

1年次 2年次 「林業白書」の 今度の森林及び 3年次 3年間のまとめ